

瓦斯、石油熱氣機關、発電機類  
原動力機ト結合シタル発電機、「クレーン」  
「キャブスタン」其ノ他ノ「ワインディングマシン」、唧筒  
金屬工及木工機械、紡績機、織布機  
織布整理機、製紙機、「カートクロージング」

## 事項五 日伊通商航海条約改締關係及暫定取極締結一件

五九 一月四日

在伊国伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛（電報）

伊国ノ日仏等八国トノ通商暫定取極公布ノ件

附記 日伊通商暫定取極締結ニ関スル説明

第一号

（一月六日接受）

伊国ハ「ブラジル」、仏蘭西、希臘、羅馬尼、西班牙、塞爾比、瑞西、日本ノ八国ト暫定条約ヲ結ビ本年末迄旧条約ヲ有効ナラシムル旨官報ニ公布セリ

（附記）

日伊通商暫定取極締結ニ関スル説明

（大正六年十二月通商局調）

大正元年十一月締結ノ現行日伊通商航海条約ハ其終期ヲ同条約第二十一条ヲ以テ本年末日トセシコロ伊国政府ヨリ右条約規定ニ基キ客年十二月中年十二月末日ヲ以テ該条約ヲ終了セシムヘキ旨ヲ公然通告シ来レリ（大正五年十二月二十九日附外務省告示第二十八号）

依テ爾来帝國政府ニ於テハ現行日伊条約ニ代ルヘキ新条約

五 日伊通商航海条約改締關係及暫定取極締結一件 五九

締結ノ趣旨ヲ以テ調査スルトコロアリタルモ現ニ戰爭ニ基ク經濟事体不定ニシテ確定条約ヲ締結スルニ便ナラザルカ為去九月中新条約ノ締結ヲ後日二期スルト共ニ不取敢現行日伊条約ヲ明年中一ケ年間延期スヘキ趣旨ノ暫定取極ヲ兩國間ニ締結スヘキコトニ閣議決定シ右交渉方在伊帝國大使ニ訓令スルトコロアリ爾来同大使ニ於テ伊国政府当局者ト商議ヲ重ネタル結果漸ク帝國政府ノ希望通り伊国政府ノ承諾ヲ得別記公文案<sup>(附2)</sup>ヲ交換スルコトニ協議纏リタル趣ヲ以テ本月二十二日右調印方ニ関シ請訓シ来リ尚右公文案、伊国政府ヨリノ來翰中伊独、伊墺トノ条約ニ基ク待遇ニ言及セル理由ハ伊国ニ於テハ是等關係条約カ開戦ニ依リ消滅セルニ拘ラズ是等条約ニ基ク關稅協定利益ハ開戦後引続キ日本其他ノ諸外国ニ適用シ来リタル關係アルヲ以テ右独墺トノ条約ニ依ル利益ニ付テモ伊国力第三国ニ対シ之ヲ与フル以上日本モ亦之ニ均霑スルノ權利アルヲ特ニ規定シ疑問ノ余地ナカラシメタルモノナリ

曩ニ伊国政府ニ於テ日本ニ対スルト等シク通商条約ノ廢棄

ヲ通告セシ国ハ仏蘭西、瑞西、塞爾比亞、羅馬尼亞、露西  
亞、伯刺西爾、希臘、西班牙ノハケ国ナルカ内瑞西、塞爾  
比亞、羅馬尼亞、伯刺西爾、西班牙トハ日伊間同様現行条  
約ヲ其儘延期スヘキ趣旨ノ暫定取極既ニ締結済ミニテ仏蘭  
西トモ右趣旨ノ暫定取極締結ノ交渉大体結了セル由ナリ

- 註 1 日本外交文書大正五年第一冊二〇二文書ノ附記一參看  
2 日本外交文書大正六年第一冊二二九文書ノ別電一及同二  
並二三〇文書ノ附屬書一及同二參看

六〇 一月十日 在伊国伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛

日伊通商航海条約改正準備用書類ニ関スル件  
公第三号 (三月十六日接受)

大正七年一月十日

在伊

特命全權大使 伊集院彦吉 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

日伊条約改正準備書類ニ関スル件

本件ニ関シ客年十一月十四日附通送第五〇号ヲ以テ御申越  
ノ趣了承貴信ニ依レバ同年一月八日附機密第二号往信ニテ

發送方申進置タル大藏省条約集中追加第一卷ノミ到着シ其  
ノ本書第一卷及第二卷未着ノ為御來示ノ如キ行違ヲ生シタ  
ルモノナルコトヲ発見致候ニ付更ニ購入ノ上本月中旬当地  
出發歸朝スヘキ當館附武官山本海軍大佐ニ托シ送付可致候  
条右様御承知相成度候也

- 註 1 日本外交文書大正六年第一冊二二四文書  
2 同右一九七文書

六一 一月十一日 在伊国伊集院大使ヨリ  
本野外務大臣宛

日伊通商暫定取極ニ関スル交換公文案ノ件  
附屬書 通商条約延長取極ノ実施ニ関スル伊国監国令訳  
文

機密第二号

(四月九日接受)

大正七年一月十一日

在伊

特命全權大使 伊集院彦吉 (印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

客年十二月二十八日附ヲ以テ日伊暫行取極ニ関スル公文交  
換ヲ了シタル次第ハ當時電信ヲ以テ及報告置候処右交換セ

ル伊国外務大臣来翰原本並之ニ対スル本使返翰写及通商条  
約延長取極ノ実施ニ関スル伊国監国令並同訳文茲ニ及送付  
候間御査収相成候様致度尚ホ本件取極中独塊兩國トノ伊国  
協定税率ノ均霑ニ関シテハ御電訓ノ趣旨ニ遵ヒ之ヲ交換公  
文中ニ明記セズトモ最惠国待遇條款ノ効果トシテ本邦品ハ  
当然之ニ均霑ストノ解釈ニ対シ普通ノ公文ヲ以テ伊国政府  
ノ同意ヲ取付ケ置クニ止メ右解釈ノ下ニ交換公文ニハ単ニ  
双方ヨリ条約ノ延長ヲ約スルコトト為サム心組ヲ以テ交渉  
ヲ進メタル処伊国当局ニ於テハ存外容易ニ我方ノ主張ヲ容  
レ交換公文中ニ之ヲ明約セル案文ヲ送付シ来リタル次第ニ  
有之候然ルニ客年十二月二十七日日本件公文交換取計ヒ方御  
電訓ニ接シタルニ依リ即日館員ヲ外務省ニ遣ハシ通商局長  
ト打合ヲ為サシメタル処通商局長ヨリ右交換公文案ニテハ伊  
国側ヨリノミ敵国トノ協定税率ヲ日本品ニ均霑セシムヘキ  
ヲ明約シアリ本取極ノ偏務的ナルヲ余リニ露骨ニ示シ居ル  
ヲ以テ其ノ儘發表スルトキハ議會等ニ於テ批難ヲ招ク虞ア  
ルヘク就テハ取極ノ内容ヲ變更セサル範圍内ニ於テ辞句ヲ  
改ムルコトト致度例ヘハ伊塊条約ノ協定税率ハ本来失効セ  
ルモノナルニ拘ラズ第三国ニ依然之ヲ均霑セシムルコトヲ

明定セル監国令アリ独逸国トノ協定税率ニ関シ規定スル所  
ナキハ當時伊国カ未タ同国ニ対シ宣戰ヲ為シ居ラザリシ為  
メニシテ右監国令ハ当然伊独条約ニ関シテモ効力ヲ及ボス  
モノナリトノ解釈ノ下ニ現ニ之ヲ第三国品ニ適用シ居ル次  
第ナル故交換公文ニハ單ニ右監国令ヲ日本品ニ適用スル旨  
ヲ記載シ独塊協定税率ト明示スルニ代フルコトトセハ内容  
ニハ何等變更ナク而カモ形式上不對等ノ嫌ヒヲ避クルコト  
ヲ得ヘシト申出デタルモ之ニ対シ館員ヨリ右公文案ハ伊国  
政府ヨリ正式ニ提案セラレ大使ヨリ之ヲ本国政府ニ轉達シ  
其ノ同意ヲ得タルモノナリ然ルニ大使ニ於テ右案文ニ依リ  
公文交換ヲ行フヘキ電訓ヲ受ケタル今日ニ至リ其ノ辞句ヲ  
更改セムコトハ仮令内容ニ變更ナシトスルモ大使限リニテ  
承諾スルヲ得ザルハ勿論本國政府ニ於テモ条約ニ代ハルヘ  
キ右公文案ニ同意ヲ与フルニ付テハ種々ノ手續ヲ經タルモ  
ノニテ今更ラ之ニ改変ヲ加フルコトハ制度上最モ困難トス  
ル所ナルヘキ旨説明シタル処通商局長ニ於テモ然ラバ致方  
ナシ実ハ右公文案ハ大藏省ト協議ノ上作成シタルモノナル  
ニ後ニ至リ同省當局ヨリ上述ノ修正ヲ要求シ来リタルモノ  
ナルガ當省トシテハ手落ナク手續ヲ了シ居ル次第第二付辞句

ノ更改ハ之ヲ断念スヘキ旨約諾シ翌二十八日原案文通りニテ公文交換ヲ了シタル次第第二有之候右御参考迄及報告候敬具

(附屬書)

通商条約ノ延長取極ノ実施ニ関スル伊国監国令訳文

監国令第二〇五三号 一九一七年十二月三十日附

(一九一八年一月二日官報第一号ニテ公布)

(前文略)

第一条 左記ノ条約ヲ一九一八年十二月三十一日迄延長スル為メニ公文交換ニ依リ締結シタル又ハ締結スヘキ協定ヲ王国内ニ施行スルコトヲ准ルス

一九〇〇年七月五日伯刺西爾国トノ通商協定  
一八九八年十一月二十一日仏国トノ通商協定  
一九一二年十一月二十五日日本国トノ通商航海条約  
一八九九年十二月三十日希臘国トノ通商議定書  
一九〇六年十二月五日——十一月二十二日羅馬尼国トノ通商關稅航海条約  
一九〇七年一月十四日——一日塞比亞国トノ通商航海条約

六三 十月二十二日

在伊国伊集院大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日伊通商暫定取極延長方希望其他ニ付伊国通商局長談話ノ件

第一六九号

(十月二十四日接受)

貴電第七五号ニ関シ

館員ヲシテ外務省通商局長ニ問合サシメタルニ其ノ回答左ノ通

伊国外務省ハ現行日伊暫定取極ヲ更ニ延長シタキ意向ヲ有シ其延長期間ニ関シ目下關係数省ト交渉中ナリ右期間ヲ外務省ニ於テハ三ヶ月又ハ六ヶ月トシ期限前ニ廢棄ヲ通告セザレバ自然的ニ延長スルコトシタキ考察ナルガ關係利害省中大蔵及商務二省ヨリノ回答未着ナリ来月中旬迄ニハ回答到着ヲ予期シ居ルニ付其上ニテ早速右取極延長ノ提議ヲナスベシ、在仏大使宛宛貴電第一二四号ニ関シテハ伊仏間ノ条約關係ハ日伊關係ト目下同一ノ状態ニ在ルヲ以テ仏国ヨリ廢棄提議ノ必要ナキモ千八百九十六年九月「チュニス」ニ関スル条約廢棄ヲ仏国ヨリ提議シ伊国ハ同条約ノ規定ニ依リ之ヲ承認セリ、在英大使宛宛貴電第五〇七号ニ関シテハ通

五 日伊通商航海条約改締關係及暫定取極締結一件 六三

一九一四年三月三十日西班牙国トノ通商航海条約  
一九〇四年七月十三日瑞西国トノ通商条約

第二条 本令ハ官報ヲ以テ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(後文略)

註 伊国外務大臣來翰及伊集院大使返翰写竝伊国監国令原文省略ス

六二 十月十六日

内田外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使(電報)

伊国政府ハ現行日伊通商暫定取極延長ノ意向ヲ有スルヤ問合方等ニ関スル件

第七五号

現行日伊通商ニ関スル暫定取極ハ明年一月一日ヨリ失効スヘキモノナル処伊国政府ハ重ネテ之レヲ向フ一ヶ年又ハ六ヶ月延長スルノ意向アリヤ伊国当局ニ問合セノ回電アリタシ尙貴官ヘ転電セシメタル在仏大使宛宛電第一二四号及在英大使往電第五〇七号ニ関シ仏英兩政府ヨリ伊国政府ニ対シ大英帝国ニ対スルト同様ノ申出デアリタルモノト思考スル処伊国政府ハ右ニ対シ如何ナル措置ヲ採ルヘキ積リナリヤ是亦取調回電アリタシ

商局長ハ英國ヨリ同様通告アリシコトヲ記憶セズ、大臣ノ手許ニアルヤモ計リ難キニ付取調べ回答スベキガ仮リニ此種ノ通告アリタリトスルモ伊国ガ之ニ関シ何等ノ措置ヲ取リ居ラザルハ確ニテ又將來何等カノ措置ヲ取ル場合ニモ、此ノ如キ「デリケート」ナル問題ニ対シテハ現外相ハ伊国ヲ「コンミット」スルガ如キ言質ヲ与フルガ如キ断ジテナカル可キ旨談話アリタル趣

六四 十一月二十六日

在伊国伊集院大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日伊通商暫定取極延長促進方ニ関シ請訓ノ件

第二一二号

往電第一六七号ニ関シ今尙伊国政府ヨリ何等通告ニ接セズ当館ヨリハ当局ニ対シ督促ヲ怠ラザルベキモ猶本使ヨリ公然政府ノ名ニ於テ伊政府ニ於テ暫定取極延長ノ希望アラバ速ニ之ガ手續致度キ旨交渉セバ早く拂ルベキヤニ思考スルニ付右交渉ヲ為スノ權限ヲ本使ニ与ヘラレタシ

六五 十一月三十日

幣原外務次官ヨリ  
犬塚農商務神野大蔵各次官宛

日伊暫定取極延長ニ関シ意見問合ノ件

六四 六五

一四九

条機密合送第四〇九号

日伊通商ニ関スル暫定取極ハ本年十二月三十一日限失効可致相成居候処既ニ講和会議モ開催セラレントスル折柄ニ付此際該暫定取極ハ何時ニテモ短期間ノ予告ヲ以テ廃棄シ得ルノ形式ニテ現行取極ヲ継続スルコトスル趣旨ヲ以テ伊国政府ト交渉方開始致度候条右ニテ差支ナキヤ貴省ノ御意見折返シ御回示相成度此段得貴意候也

六六 十二月二日 在伊国伊集院大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日伊暫定取極ノ期間延長方ニ関シ伊国外務省  
通商局長談話ノ件

第二一八号

(十二月四日接受)

往電第二一二号ニ関シ

他用アリテ館員ト通商局長ト対談中同局長ノ語ル所ニ依レバ『実ハ先月廿九日在日本伊国大使ニ対シ電訓ヲ発シ明年一月一日ヨリ暫定条約ヲ延長スルコト及ビ延長期限ハ六ヶ月トシ其後ハ兩三ヶ月「オートマチック」ニ延長シ一方ヨリ廃棄ノ意思ヲ表示スルカ又ハ新条約締結ノ場合ニ右暫定条約ヲ廃棄ストノ趣旨ニテ日本政府ニ交渉ヲ命ジタリ右早

速御通告スベキ筈ノ処失念シ居レリ』ト言ヒタル由不取敢御参考迄ニ(二日)

六七 十二月三日 在本邦伊国大使ヨリ  
内田外務大臣宛

日伊通商暫定取極締結方提議ノ件

Tokio, le 3 Décembre 1918.

Monsieur le Ministre,

D'après les ordres que je viens de recevoir, j'ai l'honneur de transmettre à Votre Excellence la proposition suivante, au nom du Gouvernement Royal Italien:

“Le Traité de Commerce et de Navigation du 25 Novembre 1912 entre l'Italie et le Japon est maintenu en vigueur jusqu'au 31 Juin 1919, avec la condition qu'après l'échéance de ce terme le même traité sera tacitement renouvelé de trois en trois mois jusqu'à ce qu'il soit dénoncé par l'une ou l'autre des Hautes Parties contractantes.”

Je saurai gré à Votre Excellence de vouloir bien me faire connaître, aussitôt que possible si le Gouvernement Impérial Japonais consent à cette proto-

gation.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération.

(Signé) Cusani

Son Excellence

M. le Visconte Yasuya Uchida

Ministre des Affaires Étrangères

TOKYO

六八 十二月三日

大塚農商務次官ヨリ  
幣原外務次官宛

日伊暫定取極ニ関シ回答ノ件

商第二三二七二号

大正七年十二月三日

農商務次官 大塚勝太郎(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

日伊通商暫定取極ニ関シ客月三十日附条機密合送第四〇九号ヲ以テ御照会ノ趣了承右ハ貴省ノ御意見ニ異議無之候条此段及回答候也

六九 十二月四日 神野大蔵次官ヨリ  
幣原外務次官宛

五 日伊通商航海条約改締関係及暫定取極締結一件 六八 六九

第一〇五号 七〇

一五一

日伊暫定取極ニ関シ回答ノ件

蔵第一〇、三〇二号

大正七年十二月四日

大蔵次官 神野勝之助(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

日伊通商暫定取極ニ関スル件ニ関シ客月三十日附条機密合送第四〇九号ヲ以テ御申越ノ趣了承講和会議ヲ目前ニ控ヘ居ル今日ニ於テハ御申越ノ趣旨ヲ以テ伊国政府ト交渉スルコトノ外致方可無之ト存候但シ其ノ廃棄ノ場合ニ於テ貿易業者ニ不慮ノ損害ヲ及ホサシメサル意味ヲ以テ予告期間ハ相当ニ定メラルル様御配慮相成方可然此段及回答候也

七〇 十二月五日 内田外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)

日伊通商暫定取極ニ関シ在本邦伊国大使ヨリ

公文提出並右修正方ニ付訓令ノ件

別電 同日内田外務大臣発伊集院大使宛電報第一〇六号

右公文要領

貴電第二一二号及第二一八号ニ関シ暫定取極締結ノ件ニ付貴官ヘノ権限附与方折角関係省ト協議中ナリシ処十二月三日在本邦伊国大使ヨリ本国政府ノ訓令ニ基キ別電第一〇六号ノ通りノ文言ヲ内容トスル公文ヲ提出シタリ然ルニ右文句ハ解釈上疑ヲ存スルニ付別電 Le même traité 以下ヲ se trouvera tacitement renouvelé jusqu'à ce qu'il soit dénoncé par l'une ou l'autre des deux Parties Contractantes, et dans ce cas, il cessera d'être exécutoire trois mois après cette dénonciation ト修正スルヲ必要トスル当省ノ意見ナリ右修正ハ原案ト差シタル相違ナキト認ムルモ在本邦伊国大使ハ之ニ対シ確答ヲ与ヘ難シトノコトナリ就テハ貴官ハ当方ノ案ニ対シ責任国政府ノ内意ヲ確メラレ結果至急電報アリタシ尚責任国政府ニ於テ右ニ同意ノ場合ニハ在本邦伊国大使ヨリ帝國政府ニ対シ該修正案ノ通りニ文言ヲ改メテ更ニ公文ヲ差出ス様訓令方申入レラレ其結果併セテ電報アレ

(別電) 十二月五日内田外務大臣宛伊集院大使宛電報第一〇六号  
在本邦伊国大使提出公文要領

第一〇六号 別電

政府ノ訓令ヲ仰ク可キ筈ナルニ事実然ラスシテ貴官ヲ經テ交渉セラルル事聊カ不思議ナリト述ヘタルニ付館員ハ其辺ノ事情ハ詳細承知セザルモ兎ニ角事ノ速決ヲ計ル為メ本件ニ関スル貴政府ノ内意ヲ聞キ度ク若シ御承認ノ上ハシカシカノ手續ヲ仰キ度シトテ貴電末段伊国大使ヘノ訓電方ヲ依頼セルニ先方ノ答ニハ日本ノ対案ヲ我カ新提案トシテ公文提出ヲ在日本伊国大使ニ命スルハ聊カ不道理ノ嫌アルニ付單ニ日本ノ対案通り修正方承認ノ旨丈ケヲ電報シ且ツ公文往復ノ形式ハ大使ノ裁量ニテ速カニ然ルヘク取計フヘキ旨訓令スヘキ旨回答アリタリ右会谈ノ節伊国当局ハ本月三日附伊国大使ヨリノ電文(日本外務大臣ハ口頭ニテ暫定取極ニ異議ナキコト及条約有効期間ニ付テハ閣議ノ結果ヲ待テ確答スヘキコト竝条約締結ノ形式ハ羅馬ニテ執行ノ希望ナル旨語ラレタリ)ヲ示シタルニ付館員ハ右ニ関スル同様ノ電訓ハ当館ニ接受シ居ラズ寧ロ反对ノ意味ノ電訓アリトテ貴電末段(多少電文不明ナルモ)ヲ指摘シタル処伊国当局ハ東京ニテ交渉ヲ続クルコトハ同様伊国政府ノ希望ニ付其旨大使ニ電訓スヘキ旨申居レル由

Le Traité de Commerce et de Navigation du 25 Novembre 1912 entre l'Italie et le Japon est maintenu en vigueur jusqu'au 30 Juin 1919, avec la condition qu'après l'échéance de ce terme le même traité sera tacitement renouvelé de trois en trois mois jusqu'à ce qu'il soit dénoncé par l'une ou l'autre des Hautes Parties contractantes.

七一 十二月七日  
在伊国伊集院大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

在本邦伊国大使提出ノ公文修正方ニ関シ伊国  
外務当局ニ申入ノ件

第二二三号

貴電第一〇五号ニ関シ館員ヲシテ外務当局ニ伊国ノ提案ト我対案ヲ対照説明セシメ右修正ノ必要ヲ述ヘ伊国政府ノ内意ヲ聞質シタル処伊国政府ハ至急関係各省特ニ大藏省ノ意見ヲ聴キタル上何分ノ回答スヘキ旨約束セルカ右対談ノ當時伊国当局ハ館員ニ対シ本件対案ハ在日本伊国大使ニ交渉サレタルヤトノ質問ニ付貴電ヲ引照シ然リト答ヘタル処果シテ然ラハ条約締結ノ権限ヲ与ヘラレ居ル伊国大使力進テ

七二 十二月九日  
内田外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)

日伊暫定取極ニ関スル手續年内完了ノ為交渉  
促進方ノ件

第一〇九号

往電第一〇五号ニ関シ  
彼我当局間ニ協議成立次第我ニ於テハ右成案ヲ閣議竝枢密院ノ諮詢ヲ經タル上公文案ノ公式交換ヲ行フ手續ニ有之從テ余程急ガザレハ以上各般ノ手續ヲ年内ニ完了スルコト困難ナル事情アルニ付其御含ミニテ本件交渉至急進捗セシメラレタシ右念ノ為メ

七三 十二月十二日  
内田外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)

在本邦伊国大使提出ノ公文ニ対スル我方修正  
ヲ伊国政府承認ノ旨ノ訓令未接到ノ件

第一一一号

貴電第二二三号ニ関シ十日伊国大使ハ八日附同国外務大臣ヨリノ訓電ヲ齎ラシ当省主任官ヲ訪ヒタルガ右訓電中ニハ在伊日本大使ハ暫定取極締結ニ必要ナル訓令ヲ受ケ居ラ

ザルニ付至急東京ニ於テ本件ヲ処理スベキ旨催促セルニ過  
ギズシテ伊国大使ハ未ダ貴電中段御報告ノ如ク日本ノ対案  
通り修正方承認ノ旨ノ電訓ヲ伊国政府ヨリ接受シ居ラズ就  
テハ其後何等カノ行違ヒヲ生シタルモノカトモ思考セラレ  
タルニ付伊国大使ニ対シテハ往電第一〇五号我修正案ノ趣  
旨ヲ通ジ至急右ニ対シ伊国政府ヨリ同意ノ訓令ヲ受クル様  
請求シ置キタリ依テ貴官ノ御見込ニ依リテハ貴任国政府ヨ  
リ在本邦伊国大使ニ対シ本邦修正案通りノ暫定取極差支ナ  
キ趣旨ノ電訓ヲ発スル様今一応伊国当局ニ交渉アリタシ

七四 十二月十四日 在伊国伊集院大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

在本邦伊国大使提出ノ公文ニ対スル我方修正

ヲ伊国政府承認ノ件

第二二七号 (十二月十五日接受)

往電第二二三号ニ関シ通商局長ハ十三日館員ニ対シ口頭ニ  
テ左ノ通り言明セリ  
伊国大蔵省ハ日本ノ対案ヲ承認スル旨只今確答シ来レルニ  
付伊国政府ハ右対案ヲ基礎トシテ条約公文ヲ交換スベキ旨  
在日本伊国大使ニ訓令セリ

大使ニ対シ右ニ付交渉方電訓致居候処今般在本邦伊国大使  
ヨリ別紙甲号写ノ通来翰ノ次第有之候案スルニ前記日伊通  
商航海条約ノ効力ヲ此際更ニ暫定取極ニヨリテ延長スルコ  
トハ日伊通商關係竝政治ノ關係ニ於テモ妥当ノ措置ト思  
考セラルルニ付帝國政府ニ於テハ同國政府ノ提議ヲ容レ前  
記日伊通商条約ハ明大正八年即千九百十九年六月三十日迄  
其ノ効力ヲ存続スルコトシ爾後兩締約國ノ一方ヨリ之カ  
廢棄ヲ声明セザル限り暗黙ニ更新セラレタルモノト看做ス  
ヘク而シテ右廢棄ノ場合ニ於テハ其ノ声明後三個月ヲ經テ  
條約ハ其ノ効力ヲ失フヘキコトトシ別紙乙号ノ通同大使ヘ  
回答致度尙本件ハ現暫行取極ノ有効期間不日終了スルニ顧  
ミ速ニ之カ回答ヲ与フルノ必要有之候条至急閣議御決定相  
成度此段請議候也

(附屬書一)

別紙甲号写

十二月十六日附在本邦伊国大使ヨリ内田外務大臣宛来翰

日伊通商暫定取極締結方再提議ノ件

Tokio, le 16 Décembre 1918.

Monsieur le Ministre,

D'après les ordres que je viens de recevoir, j'ai

五 日伊通商航海条約改締関係及暫定取極締結一件 七六

七五 十二月十八日 内田外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)

我方希望通りノ公文伊国大使ヨリ提出越ノ件

第一一三号

貴電第二二七号ニ関シ

十六日伊国大使ヨリ我カ希望通りノ公文提出アリ政府ハ一  
週間以内ニ閣議其ノ他必要ノ手續ヲ經タル上回答ノ公文ヲ  
同大使ニ交付スルノ見込ナリ右御含迄

七六 十二月十八日 内田外務大臣ヨリ  
原内閣總理大臣宛

日伊通商暫定取極締結方ニ関シ閣議申請之件

附屬書一 十二月十六日附在本邦伊国大使ヨリ内田外務

大臣宛来翰写

二 内田外務大臣ヨリ在本邦伊国大使宛復翰案  
附記 日伊通商暫定取極ニ関スル説明

条機密送第一五一号

大正元年即千九百十二年十一月二十五日附日伊通商航海条  
約ハ客年十二月二十八日附暫定取極ニ依リ本年十二月三十  
一日限り其ノ効力ヲ失フヘキコトト相成居過般来在伊本邦

L'honneur de transmettre à Votre Excellence la pro-  
position suivante, au nom du Gouvernement Royal  
Italien:

“Le Traité de Commerce et de Navigation du  
25 Novembre 1912 entre l'Italie et le Japon est  
maintenu en vigueur jusqu'au 30 juin 1919, avec la  
condition qu'après l'échéance de ce terme le même  
traité se trouvera tacitement renouvelé jusqu'à ce  
qu'il soit dénoncé par l'une ou l'autre des deux  
Parties Contractantes; et dans ce cas, il cessera d'être  
exécutoire trois mois après cette dénonciation.”

Je saurai gré à Votre Excellence de vouloir bien  
me faire connaitre, aussitôt que possible si le Gouver-  
nement Impérial Japonais consent à cette proroga-  
tion.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assuran-  
ces de ma très haute considération.

(Signé) CUSANI

Son Excellence

M. le Vicomte Yasuya Uchida

Ministre des Affaires Etrangères

TOKYO

(右和文)

以書翰致啓上候陳者本使ハ今回接手セル訓令ニ遵ヒ伊太利王国政府ノ名ニ於テ閣下ニ対シ次ノ提議ヲ通告スルノ光榮ヲ有シ候

千九百一十二年十一月二十五日附伊日通商航海条約ハ千九百一十九年六月三十日ニ至ル迄効力ヲ存続スヘク右期限到来以後ハ両締約国ノ一方ヨリ其ノ廢棄ヲ声明スル迄ノ間暗黙ニ更新セラレタルモノト看做ス但シ廢棄ノ場合ニ於テハ其ノ声明後三月ヲ經テ条約ハ効力ヲ失フ

本使ハ貴国政府ニ於テ本件有効期間ノ延長ニ同意セラルヘキヤ否ヤニ付成ルヘク速ニ貴答ニ接シ度致希望候

右申進旁本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百一十八年十二月十六日

クサニ

外務大臣子爵 内田康哉閣下

(附屬書二)

別紙乙号

内田外務大臣ヨリ在本邦伊国大使宛復翰案

日伊通商暫定取極締結方提議ニ対シ同意ノ件

以書翰致啓上候陳者本月十六日附貴翰ヲ承本大臣ハ閣下ニ対シ帝國政府ニ於テハ左記伊太利王国政府ノ提議ニ同意ヲ

表スル旨通告スルノ光榮ヲ有シ候

千九百一十二年十一月二十五日附日伊通商航海条約ハ千九百一十九年六月三十日ニ至ル迄効力ヲ存続スヘク右期限到来以後ハ両締約国ノ一方ヨリ其ノ廢棄ヲ声明スル迄ノ間暗黙ニ更新セラレタルモノト看做ス但シ廢棄ノ場合ニ於テハ其ノ声明後三月ヲ經テ条約ハ効力ヲ失フ

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

千九百一十八年十二月 日

内 田 康 哉

伊太利国特命全權大使侯爵 クサニ閣下

註 十二月二十五日上奏裁可ヲ經タリ

(右仏文)

Tokio, le décembre, 1918.

Monsieur l'Ambassadeur,

En réponse à la Note en date du 16 courant, j'ai l'honneur de communiquer à Votre Excellence que le Gouvernement Impérial du Japon est d'accord avec le Gouvernement Royal d'Italie sur la proposition suivante:

“Le Traité de Commerce et de Navigation du 25 Novembre 1912 entre le Japon et l'Italie est maintenu en vigueur jusqu'au 30 Juin 1919, avec la condition qu'après l'échéance de ce terme le même traité se trouvera tacitement renouvelé jusqu'à ce qu'il soit dénoncé par l'une ou l'autre des deux Parties Contractantes, et dans ce cas, il cessera d'être exécutoire trois mois après cette dénonciation.”

Veillez agréer, Monsieur l'Ambassadeur, les assurances de ma plus haute considération.

Son Excellence

Monsieur le Marquis Cusani,

Ambassadeur de l'Italie

&c., &c., &c.,

(附 記)

日伊通商暫定取極ニ関スル説明

大正元年締結ノ日伊商航海条約ハ伊国政府ヨリノ廢棄声明ニ依リ客年末失効ノ筈ノ処同年十二月二十八日ノ暫定取極

ニ依リ不取敢本年十二月三十一日迄其効力ヲ存続セシムルトコロアリタリ依テ過般来再ビ日伊条約ノ効力ニ関シ兩國政府間ニ交渉中ナリシ処今般協議成立シ別紙甲、乙両号ノ

公文案ヲ在本邦伊国大使ト本官トノ間ニ交換シ以テ現行日伊条約ヲ無条件ニテ明年六月三十日マテ存続スルト共ニ同日以後ハ何時タリトモ兩締約国ノ一方ハ三ヶ月ノ予告ヲ以テ之ヲ廢棄シ得ヘキコトト為サントス蓋シ今次ノ暫定取極ニ於テ斯クノ如ク其有効期間及廢棄声明期間ヲ短期ニ止メタルハ講和条約成立近ク各国トモ其関稅政策ニ一大變革アラントスルノ今日ニ在リテハ成ルヘク自由行動ノ余地ヲ制限セザランコトヲ努メタルカ為ニ外ナラズ尚今次ノ暫定取極案ニ於テハ昨年ノモノト異リ伊国カ条約ヲ以テ独壤兩國ニ認メタル協定関稅ノ利益ノ享受方ニ関シ何等言及スル所ナキモ昨年ノ取極ニ於テ右利益ヲ享受スル場合ハ伊国ニ於テ同一ノ利益ヲ第三国ニ附与スルヲ条件トセシガ故ニ右言及スルト否トハ現行日伊条約ニ最惠国條款ノ保障アル以上何等実効上ニ差異ヲ来タス所ナシ依テ今次ノ暫定取極案ニ於テハ伊国政府ノ希望ニ依リ右言及ヲナサザルコトトセリ尤モ伊国ニ於テハ独壤トノ開戦ニ依リ其以後兩國トノ条約ニ依ル協定稅率ハ対外關係ヨリ言ヘバ之ヲ消滅セシムヘキ性質ノモノナルニ拘ラス国内經濟上ノ必要ニ依リ尚之ヲ存続セシメ居ル次第ナルニ付今後モ講和条約成立シ同国ニ於

五日伊通商航海条約改締關係及暫定取極締結一件 七七  
テ一般の關稅政策決定セラルルニ至ルマテ現狀維持セラル  
ルモノト思考セラル

(欄外註記)

「本書ハ秘密院書記官長同院會議ニ説明ノ為メ同事務局ニテ作成  
セルモノナリ、松田」

七七 十二月二十二日 内田外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛(電報)

伊国ト独塊兩國トノ協定税率存続如何ニ関シ

問合ノ件

第一一五号

目下当地ニ於テ交渉中ノ日伊暫定協約ニ関シ

(一)今回ノ暫定取極案ニ於テハ昨年ノモノト異リ伊国ニ於ケ  
ル独塊協定税率均霑方ニ付何等言及セザル処右協定税率ハ  
今日依然存続シ居ル次第ナリヤ若シ然リトセバ伊国ニ於テ  
ハ講和成立後ニ於テモ伊国關稅法ガ一般の改正セラルル迄  
現狀ヲ維持スル方針ナリヤ

(二)伊国ノ独塊トノ条約ハ開戦ニ依リ当然失効セルモノト解  
釈セラルルニ拘ラズ伊国ニ於テ同条約ニ依リ協定稅ガ開戦  
後存続セラレタルハ如何ナル法律上ノ基礎形式ニ依レルモ

(三)失効セル伊塊条約ヲ第三国ニ均霑セシムル為メニ千九百  
十五年五月三十一日監国令ヲ発シ伊独条約ニ對シテモ右勅  
令ノ効力ヲ及ボスモノナリトノ解釈ヲ用キ居レリ(本年一  
月十一日機密第二号拙信参照)尚通商局長ノ說ニ依レバ新  
關稅法制定迄ハ右監国令ノ適用ヲ持續スル筈ナリ

註 日本外交文書大正六年第一冊二二五文書

(附記一)

伊国ト独塊トノ通商条約ニ依ル協定税率ニ對シ日本カ均霑シ居ル  
物品表

(備考)

税目番号中括弧ヲ用ヒタルモノハ  
旧税目表ノ番号ヲ示ス

| 税目<br>番号   | 品名          | 国定税率           | 協定税率           | 伊国統計ニ<br>ヨル日本ヨ<br>リ輸入額<br>(一九二二年) | 日本統計ニ<br>ヨル伊国ヘ<br>ノ輸出額<br>(大正二年) |
|------------|-------------|----------------|----------------|-----------------------------------|----------------------------------|
| 四四<br>(三五) | 玩具<br>普通品   | 百キロニ付<br>二〇〇リラ | (独) 八六<br>二五リラ | 八七五<br>七三リラ                       | 三〇八<br>七二円                       |
| 三三<br>(一七) | 木材粗品<br>角材  | 一屯ニ付<br>五リラ    | (独) 無稅         | 八九七<br>六〇リラ                       | 九八<br>七二円                        |
| 三三<br>(一七) | 裝飾シタ<br>ル磁器 | 百キロニ付<br>四〇リラ  | (獨) 無稅         | 一七五<br>三三リラ                       | 一六<br>〇三円                        |
| 四六<br>(三五) | 特掲セサ<br>ル樂器 | 一個ニ付<br>二リラ    | (獨) 一五<br>リラ   | 五、一<br>九リラ                        | —                                |

五日伊通商航海条約改締關係及暫定取極締結一件 七九

七八  
ノナルヤ  
以上当方參考ノ為至急回電アリタシ

七八 十二月二十三日 在伊国伊集院大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

伊国ト独塊兩國トノ協定税率ヲ第三国ニ均霑

セシムルハ伊国監国令ニ依ル旨回電ノ件

附記一

伊国ト独塊トノ間ノ協定税率ニ日本ガ均霑シ  
居ル物品表

二 日本ノ對伊重要輸出品ニシテ伊国ト独塊トノ  
協定ニ均霑スル物品表

第二二八号

貴電第一一五号ニ関シ

(一)独塊トノ協定税率ハ開戦後当然其効力ヲ失ヒ居ルコトハ  
客年十二月日伊暫定取極書ニ明記シアリ且ツ其以前十一月  
二十六日附外務大臣來信中ニモ確言シ居レリ(客年往電第  
一六九号参照)從テ貴電(一)ノ後段ノ御質問ヲ(伊国關稅法  
ガ一般の改正セラルル迄右失効ノ条約ヲ依然存続スルモ  
ノト見做シ条約國ニ均霑セシムル方針ナリヤ)トノ意味ニ  
解セバ其ノ答ハ(二)ノ下ニ述ブル理由ニ依リ然リト云ヒ得可  
シ、

(附記二) 本邦ヨリ伊太利ヘノ重要輸出品ニシテ伊国ト独逸及塊  
國トノ協定ニ均霑スル物品表

| 品名   | 単位 | 国定税率                                     | 協定税率                                     | 本邦統計ニ<br>ヨル伊国ヘ<br>ノ輸出額<br>(千円) | 備考                           |
|------|----|------------------------------------------|------------------------------------------|--------------------------------|------------------------------|
| 絹製手巾 |    | 絹織物ノ税率<br>(一基ハリラ)ニ割<br>二五割ヲ加フ<br>(獨塊)ヲ加フ | 絹織物ノ税率<br>(一基ハリラ)ニ割<br>二五割ヲ加フ<br>(獨塊)ヲ加フ | 二二<br>二                        | 本品ニ付テ<br>ハ日本ト同<br>様ノ協定ア<br>リ |
| 陶磁器  | 百基 | 四〇リラ                                     | (獨)三五リラ                                  | 一六                             |                              |
| 貝製鈕釦 | 百基 | 一五〇リラ                                    | (獨)一〇〇リラ                                 | 九九                             |                              |
| 玩具   | 百基 | 一〇〇リラ                                    | (獨)八〇リラ                                  | 三一                             |                              |

七九 十二月二十五日

原内閣總理大臣ヨリ  
内田外務大臣宛

日伊通商暫定取極ニ關スル公文交換上裁ノ件

内閣外甲第六七号

大正七年十二月二十五日

内閣總理大臣 原 敬(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

通牒

一五九

日伊通商暫定取極ニ関スル公文交換ノ件請議ノ通上裁ヲ經タリ

八〇 十二月二十五日

内田外務大臣ヨリ  
在伊国伊集院大使宛（電報）

伊国提議ノ暫定取極ニ同意ノ旨在本邦伊国大使ニ回答シタル旨通報ノ件

第一一七号

往電第一一三号ニ関シ

(一) 帝國政府ハ十二月二十五日附ニテ在本邦伊国大使へ宛伊国提議暫定取極ニ同意スル旨ノ回答公文ヲ交付セリ  
(二) 日伊兩國政府トノ間ニ現行案約ヲ大正八年一月一日ヨリ向フ六ヶ月間更ニ延長シ其後ハ三ヶ月ノ予告期間ニテ更新スル趣旨ノ暫定取極成立セル旨為參考在欧米各大使ニ転電アレ

八一 十二月二十六日

幣原外務次官ヨリ  
大塚農商務、神野大蔵、中西通信  
各次官宛

日伊通商暫定取極公文送付ノ件

条機密合送第四四六号

註

右告示ハ十二月二十七日附官報告示欄ニ掲載セラレ又交換セラレタル十二月十六日附在本邦伊国大使來翰（前出）及十二月二十五日附在本邦伊国大使宛復翰（同案文前出）各本文ハ右官報ノ官庁事項欄ニ掲載セラレタリ

八三 十二月二十七日

幣原外務次官ヨリ  
大塚農商務、神野大蔵、中西通信  
各次官宛

日伊通商暫定取極ニ関スル件

案合送第一一六八号

日伊通商暫定取極ニ関スル件

今般取極ノ日伊暫定取極ニ関シ伊国ガ既ニ戦争ニ依リテ消滅ニ帰シタル独塊、兩國トノ条約ニ定メタル協定税率ヲ同国国内經濟上ノ必要ニ依リ存続セシメ居ル次第ハ本月二十六日附機密案合送第四四六号ニ依リ既ニ御了知ノコトト存候

日伊通商暫定取極公文送付ニ関スル件

日伊通商暫定取極別紙ノ通昨二十五日ヲ以テ外務大臣ト在本邦伊国大使トノ間ニ公文交換訂了シ十二月二十七日ノ官報ニテ公表ノ筈ニ候条御了知相成度右別紙ニ対スル説明要旨ヲ添付及送付候也

註 附屬書トシテ別冊「日伊通商暫定取極ニ関スル説明」及「通商ニ関スル日本、伊太利間暫定取極」各一部宛添付セルモ何レモ前掲ニ付省略ス

八二 十二月二十七日 外務省告示

第二次日伊通商暫定取極成立ノ件

外務省告示第二十三号

大正元年十一月二十五日調印ノ日伊通商航海条約ハ客年十二月二十八日附兩國間ノ暫定取極ニ依リ本年十二月三十一日限失効スヘキモノト為リ居ル処（大正六年十二月外務省告示第四十二号参照）今般日伊兩國政府間ニ於テ右通商航海条約ハ明年六月三十日ニ至ル迄依然其効力ヲ存続シ爾後兩國締約國ノ一方ハ何時ニテモ三月ノ予告ヲ以テ之カ廢棄ヲ声明シ得ル趣旨ノ暫定取極成立シタリ

大正七年十二月二十七日 外務大臣子爵 内田康哉

処尚伊国ハ千九百十五年五月三十一日附監国令ヲ以テ第三国ヲシテ伊塊条約ニ依リ認メタル協定税率ノ利益ニ均霑セシメ居又独國トノ協定税率ニ付テハ該監国令ニ明定セラレザルモ右ハ伊国ガ当時未ダ独國ニ対シテ宣戦スルニ至ラザリシガ為ニシテ解釈上ハ該監国令ハ当然伊独条約ノ協定税率ニ付テモ適用アルモノトセラレ居ル次第ニ有之候由在伊帝國大使ヨリ報告ノ次第有之候間右御了知相成度申進候也